

愛知県教育委員会 アイ(i)チイキ(chiiki)ツナグ(tsunagu)ネットワーク

目的

- 遠隔授業を行うことにより、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を整え、生徒の主体的な学びを支援する。
- 地域連携コンソーシアムの構築により、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決など探究的な学びを実現する。
- 本研究を通して、中山間地域や半島の先端に位置する高等学校の魅力化を図る。

現状

●構成校6校は、いずれも中山間地域や半島の先端に位置する高等学校で、入学の募集定員は全て80人以下という小規模の高等学校である。これらの高等学校は、域内のさまざまな生徒層を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待される。しかし、学級数や生徒数が少なくなっており、校内の教育資源にも限りがあるため、これまで行ってきた進路希望に応じた科目開設や習熟度別指導の実施など生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を単独で確保することが困難となってきた。

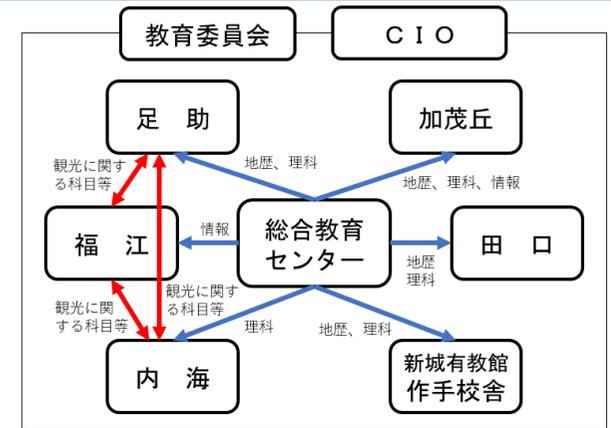
●地域連携の取組は、それぞれの高等学校で進んでいるが、教育課程外のイベント的な取組が多く、教育課程に組み込まれた教育活動とはなっていない。

●地域社会との連携・協働によって当該地域ならではの組織的・計画的な探究的な学びを実現するとともに、遠隔授業の実施や、複数の高等学校が教育課程の共通化・相互互換を図り、さまざまな教育資源を共用することによって、小規模高等学校単独ではなし得ない特色・魅力ある教育に取り組む必要がある。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

総合教育センターを配信元とする遠隔授業、構成校同士を結んだ遠隔授業を行う。

- 総合教育センターを配信元とする遠隔授業について
生徒のニーズに応じた選択科目の開設及び免許外教科担任制度の利用解消等を目的に、地歴、理科、情報等の遠隔授業を行う。
- 構成校同士を結んだ遠隔授業について
内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校において、観光に関する科目等の遠隔授業を行う。



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

地域連携コンソーシアムを構築する各構成校では、現在までにさまざまな地域連携の取組を行っている。地域連携の取組を教育課程に取り入れることにより、生徒にどのような力が身に付いたかなどを検証する。

高等学校名	構 想
愛知県立内海高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立加茂丘高等学校	地域の再開発計画に関する地域との連携
愛知県立足助高等学校	観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立福江高等学校	福祉、観光に関する地域、構成校との連携
愛知県立新城有教館高等学校作手校舎	地域の環境(農業)に関する地域との連携
愛知県立田口高等学校	地域の環境(林業)に関する地域との連携

3. ネットワークを構成する学校等

愛知県立内海高等学校、愛知県立加茂丘高等学校、愛知県立足助高等学校、愛知県立福江高等学校、愛知県立新城有教館高等学校作手校舎、愛知県立田口高等学校、愛知県総合教育センター

愛知県教育委員会 アイ(i)チイキ(chiiki)ツナグ(tsunagu)ネットワーク

育成を目指す資質・能力

- 遠隔授業により、生徒の興味・関心に応じた多様かつ質の高い教科・科目を開設することで、学びに対する主体性や積極性を高める。また、学校間連携による探究的な学びを行うことで、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。
 - 地域連携コンソーシアムの構築により、地域社会がさまざまな課題と魅力を有していることに着目し、地域社会の歴史や現状に関する理解を深め、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決に資する知識及び技能の習得と、習得した知識及び技能の活用に関わる思考力、判断力、表現力等の育成、また、自己の在り方生き方と地域社会のつながりを考えながら、地域社会の持続的な発展や価値の創出に関わり、豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力、人間性等の涵養を図る。
- ※学校により目的が異なるため、より具体的な育成を目指す資質・能力は各学校で設定する。

主なアウトプット(活動目標)

- (1) COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数
令和5年度までに22科目に
- (2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数
令和5年度に6校に
- (3) その他、管理機関が設定した活動指標
活動指標①：地域連携の学習プログラムの実施
令和5年度に18プログラムに

活動指標②：教科・科目充実型の遠隔授業以外の遠隔授業の取組数
令和5年度に30の取組に

主なアウトカム(成果目標)

- (1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況
各学校が定める学びの基礎診断、定期考査並びに各取組における定期的な生徒の振り返りで測定する。項目ごとに観点を定め、ルーブリックによる評価を行い、A、B、Cの3段階で評価する。
令和5年度：令和3年度と比較して良化（A増C減）
- (2) 遠隔授業の質の検証
①教員の説明・指示、教材の提示 ②教員と生徒のコミュニケーション
③生徒の活動の確認 ④生徒個人への指導
⑤授業以外の時間の生徒への対応（生徒の質問、課題の指示・確認）
項目ごとにルーブリックを設定し、CIOによる評価を行い、A、B、Cの3段階で評価する。
令和5年度：令和3年度と比較して良化（A増C減）
- (3) 地域課題の解決等の探究的な学びによる主体的に学習に取り組む態度の変容
生徒個人の振り返りをこまめに行い、学習意欲や地域に対する意識などの変容を検証する。項目ごとに観点を定め、ルーブリックによる評価を行い、A、B、Cの3段階で評価する。
令和5年度：令和3年度と比較して良化（A増C減）

委託期間終了後の見通し

令和5年度までの調査研究を総括し、遠隔授業の検証結果（対面授業と比較した場合の有効性、対面授業より劣る場合の対策の有無等）により、令和6年度以降重点的に支援する項目について判断する。また、令和6年度については、令和5年度中に人員配置や追加で必要な機器等の予算要望を行わなければならないので、令和4年度までの調査研究の結果により、ある程度の見通しを立てておく必要がある。このことを踏まえ、愛知県として計画的な人的配置や必要な予算措置を図り、研究の推進及び的確な検証を行う。